



丸山 勝久

立命館大学
情報理工学部
教授

ソフトウェア保守との付き合い方

ー進化や再利用を前提としたソフトウェア開発技術ー

プロフィール

1993年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。

1993年日本電信電話株式会社(NTT)入社 ソフトウェア研究所配属。

1999年NTTコミュニケーションズ株式会社転属。

2000年より立命館大学理工学部勤務

2003年9月~2004年9月カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)ソフトウェア研究所(ISR)客員研究員。

ソフトウェア保守, ソフトウェア再利用, ソフトウェア開発環境, プログラム理解支援の研究に従事。

博士(情報科学, 早稲田大学)。

情報処理学会, 電子情報通信学会, 日本ソフトウェア科学会, IEEE-CS, ACM各会員。

講演概要

システムの運用・管理において、ソフトウェアをつねに正しく稼働させておくこと、さらに顧客の要求に合わせて適時ソフトウェアを変更することは不可欠であり、ソフトウェア保守はますます重要な作業となってきています。

保守において、現在稼働中のソフトウェアを修正あるいは変更する際にもっとも重要なことは、そのソフトウェアを理解することです。同時に、ソフトウェアは本質的に変化しつづける性質を持つことを認識し、変化を積極的に取り込んでいくことが、ソフトウェア保守を実践していく上では重要です。

また、過去に開発されたソフトウェアの一部やそのソフトウェアの開発によって得られた知見を、次のソフトウェア開発において積極的に活用する活動を再利用といいます。再利用の利点は、新規ソフトウェアを効率的に開発することだけではありません。ソフトウェア開発時に再利用を強く意識することで、将来の変更に強いソフトウェアを構築することができます。

本講演では、ソフトウェア保守の概要と、保守を支える技法を紹介します。特に、プログラム理解、リエンジニアリング、ソフトウェア進化、コンポーネント指向に焦点をあて、これらを支援する技術について解説します。

F5b

7月27日

15：45～17：25

会議室B